

ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 電気電子工学に関する基礎的理論と複合的な専門的知識、さらに応用技術まで幅広く理解し、広い視点と倫理性に基づいて、先端技術動向やニーズを踏まえた総合的な判断力によって研究の実践、課題解決ができる。 電気電子工学に関する専門的技能を有し、技術的課題解決のため、他者との協働、外国語を含めたコミュニケーションやプレゼンテーションができる。 																							
配当単位数合計		13単位			20単位			配当単位数合計		14単位		10単位		10単位		6単位		8単位		6単位		8単位		95単位	
M2 M1		前期・後期		<ul style="list-style-type: none"> ●: 必修科目 ○: 選択必修科目 □: クォーター科目の受講期 												95単位									
分野		数理解科			学際科目			分野		光・エレクトロニクス		情報・通信		エネルギー・機器		制御・システム		材料・機械工学		熱・流体		設計・製作		年間履修上限単位数なし	
カリキュラムポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 「専門」に「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。また、高度な基礎理論から最新の応用技術にわたる幅広い専門知識と先端技術のみならず、最新の専門的理論や最先端の応用技術を体系的に修得する。同時に国内外の関連する文献を調査・要約・整理してまとめた内容を的確に伝達する能力を養成するとともに、国内外での研究発表を通じて、自身の考えや研究成果を的確に伝達できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 「専門横断」では、研究分野の専門知識・技能を深めるとともに、他の工学分野と共通する工学知識や技術を修得する。 「共通横断」では数理解科、語学から社会倫理におよぶ幅広い知識を修得することにより、ユニバーサルな観点に立った的確なもの見方と考え方を確立する。 																							
アドミッションポリシー		<p>「エレクトロニクス・情報分野」「電機・制御分野」において、高度な専門知識やスキルを駆使し、また、機械工学の知識を加味することで、社会・産業界が求める最新の技術開発ができる高度な技術者を養成する。また、社会貢献するという強い意志と自身の考えに基づいて解決能力を持って、それを実現するために努力を惜しむことなく邁進できる学生を求めている。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「エレクトロニクス・情報分野」、「電機・制御分野」の基礎と応用技術を修得し、新しい技術開発に携わり、積極的に社会貢献したいと考えている人 自然環境との共生を伴った社会の発展のために、自ら努力して成長していく意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 																							
ディプロマポリシー		<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>＜工学部＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を持てる。(関心・意欲)【主体的に生涯学習を継続する意欲と関心】 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけそれを活用できる。〔知識・理解・技能〕【技術者に求められる文・理・情報系の素養】 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれらを実践的に活用できる。〔理解・応用・技能〕【専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)】 技術者および社会人としてよきまわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔協働・表現〕【相互に理解し議論するコミュニケーション能力】 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔意欲・協働〕【他者との協働による課題解決力】 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔理解・応用・倫理〕【社会に対し能動的に貢献する行動力】 <p>◆注: 「3」を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>＜電気電子システム工学科＞</p> <p>電気電子システム工学科では、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A) 社会が必要とされるエンジニアとしての基礎力である数学・自然科学の基礎知識と電気電子工学分野の基礎知識に習熟しそれらを活用することができる。【基礎学力】</p> <p>(B) 電気電子システム工学の基礎知識を活かし、技術的な課題を抽出し解決に導くことができる。〔知識・理解・論理的思考力〕【知識・理解・論理的思考力】</p> <p>(C) 理論的な思考に基づき自分の意見を明確に発表でき、他者との討論を通じて互いの意見を理解しながらチームで課題解決の作業をすすめることができる。〔コミュニケーション能力〕【コミュニケーション能力】</p> <p>(D) 持続可能な社会を実現するために、未知の課題に対応できるよう、幅広い学修経験に基づいて自主継続的に学修することができる。〔継続学修〕【継続学修】</p> <p>(E) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負う使命と倫理的責任に基づいて行動することができる。〔技術者倫理〕【技術者倫理】</p>																							
分野別到達目標		グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、広い視野の人文的教養・知識をもつこと(思考・判断力など、言語の基礎知識を備え、異文化理解やコミュニケーション能力が養われるとともに、心身の健康を維持し発達する力を備えている。			工学の観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用できるとともに、深い関心をもった社会の発展に寄与する姿勢・判断ができる。			グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学の観点から社会の発展に寄与する姿勢・判断力、より実践的な活動態度で発展できる。		問題の提起、解決法の探求、実験的検証に至るまでの方法論を提案でき、アナログ回路からデジタル回路に至るまでの各種電子回路の計算ができる能力を身につけている。		諸定理を用いて電気回路の回路計算ができ、アナログ回路からデジタル回路に至るまでの各種電子回路の計算ができる能力を身につけている。		電子・光デバイスの動作原理や理論を理解し、これを作製したり特性の計測などに応用する能力を身につけている。		電気機器の構造や動作原理を理解し、発電・送配電ならびにエネルギー変換の幅広い分野において電気を活用できる能力を身につけている。		ソフトウェア・ハードウェアの基礎を理解でき、コンピュータシステムや通信システムの専門基礎のほか、制御工学を組み合わせて多面的に活用できる能力を身につけている。		卒業に必要な単位数124単位					
配当単位数合計		13単位			20単位			配当単位数合計		18単位		13単位		16単位		14単位		18単位		20単位		99単位			
2 4		前期・後期		<p>卒業研究</p>												16単位									
1		前期・後期		<p>基礎電気計測 2</p> <p>電磁気学Ⅲ 2</p> <p>電磁気学Ⅱ 2</p> <p>電気数学 2</p> <p>電気電子システム入門 2</p> <p>基礎電気計測 2</p> <p>電磁気学Ⅲ 2</p> <p>電磁気学Ⅱ 2</p> <p>電気数学 2</p> <p>電気電子システム入門 2</p> <p>電磁気学Ⅰ 2</p> <p>電磁気学Ⅰ 2</p> <p>電磁気学Ⅰ 2</p>												25単位									
分野		キャリア形成の基礎			工学の基礎			数理解科と教育		その他連携科目		電気電子基礎		実験・演習・設計		電気電子回路		材料・物性・デバイス		エネルギー・電気機器		システム科学・通信		年間履修上限単位数44単位	
カリキュラムポリシー		<p>＜工学部のシステム・ポリシー＞</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目選択を取り入れるとともに、科目間の連携を効果的に図るべくカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人文科学、自然科学、情報技術、経営、知識情報などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。 継続した英語教育によって、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。 必修・選択(選択必修を含む)科目によって、専門分野の広範な知識を体系的に身につける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。 実験・実習・探求演習(Project Based Learning, PBL)科目によって、自発的・継続的に学修する能力、理論的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働への意識を養う。 卒業論文に関する科目によって、就職者としての応用能力を高める。 学士課程教育の最大限とする卒業研究によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力のある専門的技術者として必要な能力を養う。 <p>◆注: 「3」 4) 5) 6) を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>																							
アドミッションポリシー		<p>電気電子システム工学科は、今日の電気・電子工学の進歩に対応でき、明日の電気・電子工学を開拓できる知識と実践力を持つエンジニアを世に送り出すことを目的としています。電気・電子工学は目覚ましい発展を遂げてその領域も多岐にわたり、単なる一分野の専門知識だけでは不十分で、今後は幅広い専門分野の知識がますます重要となります。さらには、人や環境に調和した技術の開発が求められています。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 広く電気・電子工学に興味を有する人で、行動力のある実践的なエンジニアをめざす人 これまで学んできた知識を進化させて「ものづくり」に応用する意欲のある人 人や地球環境に配慮した工学技術に興味を持ち、持続可能な社会の発展に貢献する技術者めざす向上心のある人 																							